

Q&A

2016年冬号第5巻

ヒトパピローウイルス:あなたが知っておくべきこと

The Children's Hospital
of Philadelphia®



VACCINE EDUCATION CENTER

ヒトパピローウイルス(Human papillomavirus:HPV)は、性器疣贅のほか、子宮頸部や他の生殖器の癌、および頭頸部の癌を含む様々な形態の癌を引き起こすウイルスです。HPV感染症は米国と世界中において最もよく見かける性感染症です。実際、毎年約300,000人の女性がHPVによる子宮頸癌で亡くなっています。

Q. ヒトパピローウイルスとは何ですか？

A. ヒトパピローウイルス(HPV)は、主に生殖器と子宮頸部内膜に感染するウイルスの一群です。何種類かのHPVは男女の生殖器に感染し、疣贅を形成します。性器疣贅は外観が醜く、感情的な疲れを生じさせることがあります。他の種類のHPVは、子宮頸癌および他の生殖器の癌の原因となります。HPV感染症は時々、頭頸部癌につながることもあります。

Q. HPVの頻度は？

A. HPVは米国や世界中で最も一般的な性感染症です。半数を超える性的活動性のある人が、生涯のうちいつかHPVに罹患します。現在、2,000万人の米国人がHPVに感染しており、毎年新たに600万人がHPVに感染します。HPVの初感染者の半数は15~24歳となっています。

Q. HPVは危険ですか？

A. はい。大半の場合、HPVは自然排除されるため、健康被害をもたらしません。しかし、HPVは時々、長期間留まり、癌の原因となることがあります。米国では毎年、約39,000人の男女がHPVによる癌を発症しています。子宮頸癌は女性における最も頻度の高い癌の一種であり、世界中で毎年約300,000人の女性が亡くなっています。

Q. HPVにどのようにして感染しますか？どうすれば感染を避けられますか？

A. 生殖器におけるHPVは、全例ではありませんが多くの場合、性的接触を介して人から人へ感染します。HPV感染を回避する最善の方法は、あらゆる性的接触を控えることです。また、HPVに感染していない1人のパートナーのみに性的接触を制限することにより、感染リスクを低減することができます。しかし、HPVに感染している大半の人は自身が感染していることを知らないため、それを避けるのは困難です。コンドームは性感染症を減少させる一方法として推奨されていますが、HPV感染を完全に予防するわけではありません。

Q. 女性は定期的なパップテストにより子宮頸癌を回避できますか？

A. 必ずしも避けられるとは限りません。かつて、子宮頸癌は米国における癌による死亡原因で最も頻度の高いものでした。パップテスト(細胞診検査)はそれを変えました。HPV感染症は、癌を発症する可能性のある変化を子宮頸部に引き起こします。パップテストは、子宮頸部を擦過して採取した細胞を利用して行われ、それらの細胞が初期癌(前癌病変と呼ばれる)と一致する変化であるかを調べる検査です。これらの変化が検知された場合、医師は癌が進行する前に病変部に外科的処置を行うことが可能です。一般的にHPV感染から癌への進行は数十年かかります。したがって、大半のHPV感染が10代や若年成人期に生じますが、子宮頸癌は40代および50代の女性においてより頻繁に発症します。

パップテストは最も効果的な癌検診の一つであり、米国における子宮頸癌の発症率を劇的に減少させてきました。しかし、この検査は完全に癌を予想できるわけではなく、全ての女性が十分な頻度で検査を受けているわけでもありません。さらに、パップテストは子宮頸部以外の部位におけるHPVによって引き起こされる癌を検出することはありません。

Q. HPVを予防するワクチンはありますか？

A. はい。Gardasil® 9は9種類のHPVを予防します。何千人もの女兒と若年女性を対象とした研究において、ワクチンの安全性とHPVの持続的な感染予防の有効性が確認されました。男児と若年男性を対象とした研究においても、HPVワクチンは安全であり、肛門と性器の疣贅を予防する有効性が確認されました。ワクチンは接種者の年齢により、合計2回または3回の接種が行われます。15歳未満は、6~12か月あけて合計2回の接種を受けるべきです。15歳以上、または免疫不全の接種者は、合計3回の接種を受けるべきです。2回目の接種は初回接種の1~2か月後、また3回目の接種は初回接種の6か月後に実施されるべきです。



続く >

ヒトパピローマウイルス:あなたが知っておくべきこと

Q. 誰がHPVワクチンの接種を受けるべきですか？

A. HPVワクチンは11～12歳の全ての男女に推奨されています。ワクチンは9歳から接種することができます。これより低い年齢でワクチンの接種を受けなかった13～26歳のティーンおよび若年成人全てにも接種が推奨されています。一部の方は、なぜ男児もHPVワクチンの接種を推奨されるのか疑問に思われるでしょう。まず初めに、男児はHPVにより、癌はもちろん、性器疣贅に罹患する可能性があり、HPVワクチンの接種により利益を受けるからです。実際、HPVによる癌の約1/3は男性に発症しています。2つ目に、男児への接種により、性的パートナーへの感染の可能性が低くなるからです。女兒における研究には遅れを取っているものの、男児における研究でもワクチンの安全性と有効性が証明されています。



Q. 性感染症の予防ということですが、なぜHPVワクチンは思春期の若者に推奨されているのですか？

A. 大半の場合、11～12歳の子供は性的活動を有しませんが、いくつかの理由により、その年齢で接種を受けることが重要です。まず初めに、ワクチンをより若年期に接種した方が、予防効果がさらに高いことが研究により示されているからです。2つ目に、最善の予防策を講じるためには、全ての接種を性的活動性が始まる前に終了すべきであり、また連続接種の完了までに最低6ヶ月かかるためです。3つ目に、実際問題、ティーンは年長になるほど多忙になることから、より早期に全ての接種を完了する方が容易であるためです。最後に、予防効果が長期間持続することが研究により示されており、ワクチン接種を遅らせることに有益性はなく、むしろ癌のリスクを高めるだけだからです。

Q. HPVワクチンはどのように製造されていますか？

A. HPVワクチンは、癌や性器疣贅の最も一般的な原因となる9種類のウイルス表面のタンパク質を使用して製造されています。

この情報はChildren's Hospital of PhiladelphiaのVaccine Education Centerによって提供されています。当センターは親御様や医療専門家の方々のための教育情報源であり、感染症の研究および防止に注力する科学者や医師、および親御様から構成されています。Vaccine Education CenterはChildren's Hospital of Philadelphiaの基金教授陣によって資金提供されています。当センターは製薬会社からの援助を受けていません。

Q. HPVワクチンは安全ですか？

A. はい。HPVワクチンは、各種類のウイルスから単独のタンパク質により製造されているため、HPVを生じることはなく、子宮頸癌や他の癌の原因になることはありません。ワクチンによる最も一般的な副作用は、接種部位の発赤と圧痛です。また接種後に微熱を生じる可能性があります。HPVワクチン接種が推奨されている年齢層は失神の可能性があるため、これや他のワクチンの接種後15分程度は医療機関に留まることが勧められています。HPVワクチン接種後の血拴、神経障害、死亡などの有害事象が報告されていますが、科学的研究によりこれらの事象はワクチンが原因でないことが証明されています。

Q. HPVワクチンを接種した若年女性でもパップテストを受ける必要がありますか？

A. はい。HPVワクチンは子宮頸癌を引き起こす全ての種類のHPVを予防できるわけではないため、定期的なパップテストで検診を続けるべきです。

Q. HPVワクチン接種を受けた女性でも性感染症を心配する必要がありますか？

A. はい。HPVワクチンは梅毒、淋菌、クラミジア、ヘルペスなどの性感染症を予防するわけではありません。また、このワクチンは全ての種類のHPVを予防するわけではありません。

Q. 既に旧型のHPVワクチン(HPV2またはHPV4)を接種した人は、新型のGardasil 9ワクチンを接種する必要がありますか？

A. 現時点では、CDCからそのワクチンを追加接種することは推奨されていません。しかし、HPV2またはHPV4を完了後にHPV-9の接種を判断した人は、毎年数千人の癌と数百人の死亡を引き起こす5種類の異なる血清型から保護されます。このような状況においては、HPV9は6～12か月あけて2回の接種がなされるべきです。

HPV感染症やワクチンに関する追加の情報は、以下をご覧ください。

www.prevent-HPV.org

 The Children's Hospital
of Philadelphia®



VACCINE EDUCATION CENTER

vaccine.chop.edu

全米で最初の小児病院であるChildren's Hospital of Philadelphiaは、患者看護、先駆的な研究、教育および権利擁護における世界的リーダーです。